令和８年度(2026 年度) BRIDGE 構築事業「教科等横断」推進プロジェクト　伴走支援充実事業

第４回オンライン講習レポート

令和８年９月25日（金）に、BRIDGE構築事業「教科等横断」推進プロジェクトにおける「伴走支援充実事業」第４回オンライン講習を実施しました。当日は各道立高等学校等から255名の先生方が参加しました。

１　伴走支援充実事業の趣旨

総合的な探究の時間の目標を実現するためには、生徒が主体的に学習活動を続け、自らの学びを振り返りながら、活動の質を上げることが大切であり、その際、教員が適宜、生徒に指導や支援をして、生徒の探究活動に関わることが求められています。そのため、道教委では、教員が生徒の探究活動を伴走支援する際に必要な資質能力の向上に資することを目的に、大学教員等を講師とした講習を開催しています。

２　伴走支援充実事業　第４回オンライン講習の概要

〇テーマ　「教科等横断的な学び」

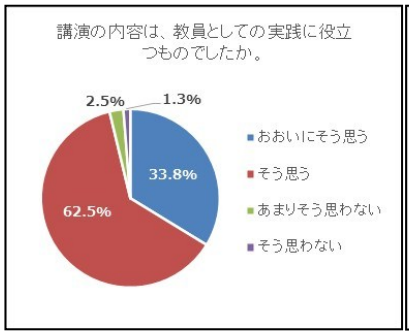
〇講　師　東京学芸大学　先端教育人材育成推進機構　准教授　藤村　祐子　氏

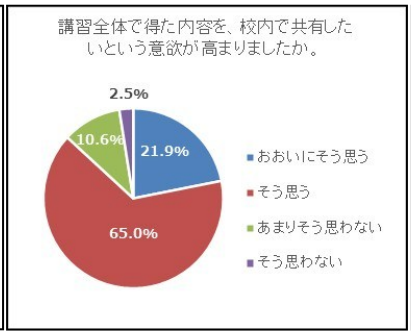
〇講義・演習

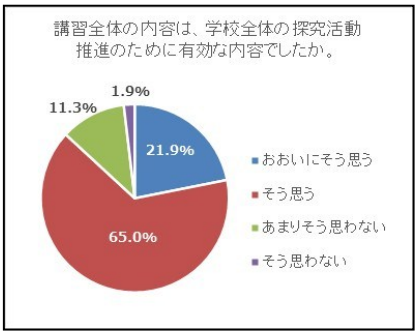
「教科等横断的な学びはなぜ必要か」を「本研修を貫く問い」とし、複数の教科の先生方からなるグループを編制して、東京学芸大学高校探究プロジェクトにおける「ミニ探究」の手法を用いて探究的な「問い」をつくるワークを実施しました。各教科の見方・考え方を働かせて設定した「問い」を基に、より「大きな問い」を検討することを通して、様々な教科の視点での考えを表現し合い、改めて教科間につながりを見いだす機会となりました。

また、こうした取組を校内研修等において実施することで、教科横断型授業や探究の実践に向けた「目線合わせ」となるとともに、校内の「探究文化」の醸成につながるとの説明がありました。

３　参加者アンケート結果（一部項目のみ、令和８年９月29日現在、回答数160人）







☆参加者の感想☆

- 各教科を『何のために学ぶのか』という視点から見直し、各教科間のつながりを考えることができた。
- 各教科の異なる視点を組み合わせることで、より探究的な問いを生み出せることが分かった。
- 「ミニ探究」を校内研修でも実施し、教員同士で探究について考える機会をつくりたい。
- 一人の教員だけが理解していても学校全体の取組は進まないので、全教員で探究の考え方や手法を共有し、組織的に取り組んでいきたい。

【オンデマンド講習】

当日の講義をオンデマンド講習としてアップロードしています。オンデマンド講習はPlantに登録する研修の対象としていますので、オンデマンド講習の受講を希望する場合は、研修コード（「2026 教高10」）からPlant上で検索して申し込んでください。

「Plant」二次元コード